

研究構想図

- ・社会の状況
- ・児童の実態
- ・保護者の願い
- ・地域の願い
- ・教職員の願い

〈学校教育目標〉

人間尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた
人間性豊かな子どもの育成
○心も体もたくましい子
◎進んで考えくふうする子
○いつも仲よく助け合う子

【中教審答申の内容から】

- ・資質・能力の柱としての「知識」「思考力・判断力」「学びに向かう力・人間性」の育成。
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善。
- ## 【新学習指導要領から】
- ・社会科の教科目標が改訂(小・中・高の接続等)された。
 - ・社会科で育成する資質・能力を明確にしたこと。
 - ・社会的事象の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成すること。

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

目指す子供像

- 調べ、まとめ、社会生活について理解する子供
- 調べたことよさや関係、意味を複数の立場や意見を基に考え、表現する子供
- 社会的事象に関心を持ち、主体的に学習問題を追究し、社会の一員としてよりよい社会を考えようとする子供

低学年	中学年	高学年	梅の実
自分と身近な人々、地域との関わりについて考え、愛着をもつことができる子供の育成	自分たちの暮らす地域への理解を基に、地域社会のこれからを考えようとする子供の育成)	日本の国土や産業、政治、歴史、国際社会における役割などの確かな理解を基に、日本の将来を考えようとする子供の育成	自分と身近な社会との関わりについて関心を持ち、具体的な活動や経験を通して理解を深め、地域社会の一員として、自分のできることを実践しようとする子供の育成

仮説

社会的事象の見方・考え方を働かせることを促す教材を開発し、社会的事象に着目した問いや社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える問いを子供の思考の流れに合わせて小単元の中に設定し、対話的に学び合ったり、複数の立場や意見を基に考えたりする学習活動を工夫して、理解を確かにしていくことで、問いをもち、追究し、社会とつながっていかようとする子供が育つだろう。(案)

※「問い」とは、学習問題や学習問題を学級集団で追究するために必要な追究の「問い」。主体的な追究には、自ら「問い」をもち続けていくことが大切である。

※「見方・考え方」とは、見方は追究する際の視点であり、考え方とは、手順や方法のことである。

研究内容・手立て

- 研究内容① 教材の工夫
- 研究内容② 学習問題の工夫
- 研究内容③ 学習活動の工夫
- 研究内容④ 評価の工夫